



星川だより

熊谷空襲を忘れない市民の会 会報



石上寺の戦災けやき案内板



女神像横に設置された「星川」案内板



中央公園の戦災けやき案内板

『熊谷空襲を忘れない市民の会』が発足してから約10年が経過。この間、市街地の戦跡巡りや大学生等による調査・研究発表などによる調査・研究発表などによる意欲的に企画され、私自身も参加させて頂きました。

その中で、いくつか熊谷市へ対する課題提起もございました。その一つが熊谷空襲の戦跡に案内板をつけられないか？というものです。これは、戦跡を通して市内外の方が空襲の歴史を知るとともに、

引き続き、「非核平和都市」を宣言する熊谷市の一議員として、平和行政のさらなる推進と強化を目指し、『熊谷空襲を忘れない市民

これに先立ち、県立熊谷女子高等学校の北門には既に市の教育委員会による案内版が設置されましたが、この度、民間所有の戦跡にも案内板がついたことは大きな前進だと感じております。

なお、今後の課題としては、他の民間所有の戦跡にも案内版を設置することと併せて、時間の経過とともに老朽化する戦跡を如何にして後世へ残していくか？ということですので。具体的には、補修や修繕という部分へも行政が積極的に関わることが考えております。



熊女北門の案内板(教育委員会が設置)



熊谷空襲の戦跡に案内板がつく

市民の思いがカタチに！

腰塚 菜穂子

平和についての洞察を深める契機にもなり得ると私自身は受け止めました。

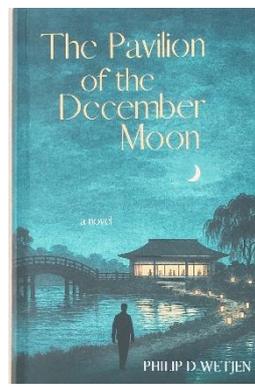
す。草の根の活動から生まれた声に行政が真摯に向き合い、カタチにして下さったことは素直に評価したいと思います。

(熊谷市議会議員)

の会』の皆様を中心により広く市民と連帯してまいりたいと思います。

アメリカ人から見た熊谷空襲

吉田庄一



昨年は戦後80年というこ
とで、日本中で様々な企画
展が開催された。熊谷市周
辺では、熊谷市立図書館、
行田市郷土博物館、桶川市
平和祈念館、群馬県館林市
第一資料館、大泉町公民館
一階ホール、赤堀歴史民俗
資料館(伊勢崎市)などでも
企画展が開催され、回らさ
せていただいた。どこも地域
的な特徴をメインに展示し
ていて大変勉強になった。中
でも前橋市は、常設の「前橋
空襲と復興資料館」をオー
ブンさせ際立つ取り組みを
行った。「前橋空襲を風化さ
せない」という市民の思いが
具現化されたものだ。熊谷
市も参考にしてほしい。

私たちは、八木橋8階カ
トレアホールで、8月13日
から18日まで、「戦後80
年平和展」最後の空襲・熊
谷」を開催した。新聞、テレ

ビ、ラジオなどで
も取り上げていた
だき、熊谷市民
を中心に約4,0
00名の来場があ
り、市民の平和への思いを改
めて感じた。うれしい誤算だ
つたのが、空襲体験者の来場
が多かったことだ。遠方に住
むお子さんに頼んで連れて
きてもらった方、体力的に行
けないので話を聴きにきてほ
しい(八木橋に電話)と連絡
をくれた方、90歳を過ぎて
お一人で来場して体験談を
話された方など、大変貴重
な出会いをさせていただき、
大きな力を得た。さらに、
高校生や大学生などの来場
も多く次世代への継承の端
緒にもなったと思う。

ところで、この夏のイベン
トに前後してアメリカ人の二
人の方からコンタクトがあつ
た。一人はCNN記者のレン
ドンさん。もう一人は、アメ
リカ在住の作家フィリスさんだ。
レンドンさんは、ソウル在住
でアジア・中東地区の戦争を
中心に取材しているという。
熊谷空襲を題材に記事を書
きたいという申し出だった。

取材に協力することにし
たのだが、いくつか疑問もあ
つた。その一つが、日本の主
だった都市は、米軍の空襲で
壊滅的な被害を受けたのだ

が、「なぜ、熊谷なのか」とい
う点だった。レンドンさんの
問題意識は、天皇の玉音放
送(無条件降伏)のわずか
12時間前に行われた熊谷
空襲について、熊谷市民はど
う思っているのかということ
だった。取材内容は、「無意
味な空襲」第二次世界大戦
の終戦わずか12時間前に爆
撃を受けた日本の町」と題
したweb記事になり、7月
15日に配信された。そして
CNNニュースのワールドトレ
ンドで第一位になった。熊谷
空襲が世界中に知れたとい
うことだ。

次にフィリスさんが、彼は
執筆中の小説「The Pavilion
of the December Moon」(12
月の月の館)のロケハンで熊谷
に来たのだ。小説は、南京大
虐殺と熊谷空襲をシンクロ
させた内容ということだった。
Totally out of control(完全
に制御不能)と Totally in
control(完全にコントロール
できている)を核にしている
という。制御不能と捉えら
れたのは南京大虐殺だ。そ
してコントロールされていたと
しているのは熊谷空襲のこと
だった。それぞれ問題意識は
異なるが、熊谷空襲は、私
たちが思ったり感じているこ
と以上に大きな意味を持つ
のだろう。戦争における象

徴的な事象だったのかもし
れない。

あと一つの疑問は、「最後
の空襲が、なぜ熊谷だったの
か」という点だ。お二人は同
じ見解を示した。単純に順
番だったのではないかとい
うことだ。フィリスさんには完成
した本を送っていただいたり、
その後の交流が続いている。

南京大虐殺とは

南京大虐殺とは、1937年
(昭和12年)、日中戦争において、
日本軍が当時の中国の首都、南京
を占領した際(陥落は12月13日)、
中国軍の捕虜や一般市民に対し
て殺害、暴行、略奪、放火などを
行った事件です。犠牲者数につ
いては、数万人から30万人と大
きな幅があります。日本政府は、非
戦闘員の殺害や略奪行為があ
つたことは否定できない、としつ
正確な犠牲者数については断定は
困難であるという立場をとって
います。私は、両国政府と距離を置
いた国際的な第三者機関をつくり
実態を明らかにして、戦争の非人
道性を炙り出し、平和の礎にして
ほしいと思っています。



告知 春のイベント

日時 3月22日(日) 14時
場所 熊谷市緑化センター
2階

「熊谷空襲をどう伝えるか」
記憶の継承のいま〜(仮題)

大学で映像を学ぶ松田み
なみさんが、熊谷空襲を題材
にドキュメンタリー映画を完
成させました。松田さんの映
画の試写会を中心に、熊谷空
襲の継承について、若者たち
とディスカッションいたしま
す。



会計報告 (2025/11/24~2026/1/26)

収入	725 円
支出	12,100 円
残高	71,939 円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、
米田主美
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)
メール imajn241@gmail.com
HP <http://www.peace-kumagaya.org>